

平成 24 年度研究チーム活動中間報告（第 1 回目）

「地域文化保全のための伝統的知識 Traditional Knowledge の再評価—持続可能な衣食住の教育をベースにした環境教育のエリア研究—」

No.124 研究幹事 谷口文章（文学部）

本研究では、今年度 5 回の研究会を行なった。第 1 回研究会（2012 年 6 月 1 日）では、研究幹事から課題の趣旨、目的、年次計画についての説明があり、研究メンバーの担当領域についてディスカッションが行なわれた。また、現在までに研究幹事によってすすめられているマレーシア先住民族 **Jakun People** の伝統文化とライフスタイルの調査研究の報告があった。第 2 回研究会（7 月 28 日～29 日）では、本研究における共通テーマや課題を検討し、地域の動植物、生態系、環境調査について話し合い実践的ノウハウについて議論した。第 3 回研究会（10 月 23 日）では、タイ・ラジャバト＝プラナコーン大学環境教育センターより、**Siriwat Soondarotok** 所長と **Chinatat Nagasinha** 副所長をお招きし、**"Ethnic Clothes & Living Together with Nature from the Viewpoint of Eco-Friendly Clothing Education"** のテーマのもと講演会を行なった。タイ少数民族の衣装と環境との関係について「服育」の観点から研究報告が行なわれた。主に、山岳民族を取り巻く環境の変化についていくつかの問題点が指摘された。講演後の質疑応答では、少数民族の伝統文化や民族衣装をめぐる現代的な問題を越えて、ヒーリングや伝統医療の重要性についての議論も活発に交換された。第 4 回研究会（2013 年 2 月 20 日）では、日本の古い慣習である入会林野における環境教育の実践についての発表があった。第 5 回研究会（3 月 18 日）では、台湾・国立政治大学の林其昀教授から **"Economic Planning for Sustainability"** についての講演が行なわれた。持続可能な社会の構築のための環境政策には地方政府のおこなう政策が重要であること、現在のような中央政府が地方政府を搾取するという関係を改善し、国際的公共財 (IPGs) の保全政策を行わなければ IPGs の生み出す利益は減少し、世界は持続可能性を失っていくこと、中央政府の補助のもとで地方政府と地域住民そしてそれをサポートする人々が重要な働きを担うような経済政策が、今後の持続可能な社会の構築につながるということが指摘された。



Siriwat Soondarotok 氏、Chinatat Nagasinha 氏と共に



第 4 回研究会 台湾・国立政治大学の林氏の発表

第 1 回研究会（2012 年 6 月 1 日、甲南大学）研究趣旨と企画 谷口文章（甲南大学文学部教授）

第 2 回研究会（合宿）（2012 年 7 月 28 日～29 日、環境生命総合研究所 [京都]）本研究課題における

共通テーマについて

第3回研究会（2012年10月23日、甲南大学）講演："Ethnic Clothes & Living Together with Nature from the Viewpoint of Eco-friendly Clothing Education" 講師：Siriwat Soondarotok 氏(Dean, Chaibadanpipat College)、Chinatat Nagasinha 氏 (Vice Director, Environmental Education Center, Phranakhon Rajabhat University)

第4回研究会（2013年2月20日、甲南大学）研究発表：「生産森林組合における環境教育の取り組み～兵庫県を中心に～」発表者：天野雅夫（神戸親和女子大学非常勤講師）

第5回研究会（2013年3月18日、甲南大学）講演："Economic Planning for Sustainability" 講師：林 其昂氏（台湾・国立政治大学教授）コーディネーター：岡田元浩氏（甲南大学経済学部教授）

以上を通じて、本年度は（1）内発的発展による衣食住をベースにしたライフスタイルの調査、（2）先住民族の伝統的知識の収集と検証、（3）固有文化と伝統的知識の保全のための環境教育の展開を中心に研究会がすすめられた。